

報道関係各位

国立大学法人お茶の水女子大学

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーションセンターによる「平成28年熊本地震」において被災された学校を対象とした理科教育支援活動の実施について

1. 背景

お茶の水女子大学では、東日本大震災直後から、岩手県および岩手県沿岸部の教育委員会・学校(のべ約3800人の教員児童生徒)と連携し、被災地の理科教育を支援して参りました(東日本大震災被災地理科教育復興支援事業)。そして今年度からは、「新たな災害時に途切れない教育システムの開発と検証(<http://www.cf.ocha.ac.jp/sec/projects/gensai/index.html>)」事業を開始し、災害に備える理科教育についての実践的な研究・開発と、熊本地震の被災地における理科教育に取り組んでいます。

2. 目的

大学と小中学校が連携し、実験・実習を中心とした効果的な授業支援を行います。

3. 実施概要

(1) 益城町立木山中学校にて理科授業を行います。

実施日時：7月22日(金) 1・2・4時間目(各回50分, 同内容)

1時間目 8:45~, 2時間目 9:45~, 4時間目 11:45~

場所：〒861-2244 熊本県上益城郡益城町寺迫 1090

益城町立木山中学校

対象：中学2年生 3クラス

内容：タブレット顕微鏡を用いたメダカの血流観察

(2) 益城町立広安西小学校にて科学部支援を行います。

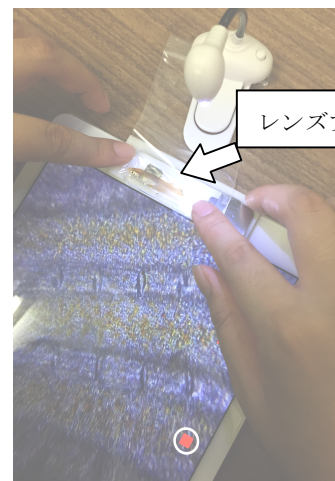
実施日時：7月22日(金) 16:30-18:00

場所：〒861-2235 熊本県上益城郡益城町福富 1001

益城町立広安西小学校

対象：科学部(小学校5, 6年生 10人程度)

内容：タブレット顕微鏡で微生物や花粉などを観察する



タブレット顕微鏡でメダカの血流を観察する様子

※タブレット顕微鏡とは、前面側カメラ上に市販の小型レンズプレートを載せ、その上に観察試料を置くことで、画面を通して約100倍程度の観察が可能になる新しい手法の顕微鏡です。

4. 支援の具体的内容

様々な実験器具を扱う理科では、災害時に器具の破損が頻発しています。また、教材開発や、授業の準備は、教員への負担が大きいことが問題になっています。このような問題を解決するために、限られたスペースでも授業実施および保管が可能な、効果的な実験コンテンツを開発し、実施をサポートしています。今回は、タブレット顕微鏡を用いた実験・実習に取り組みます。この顕微鏡の特徴は、手軽でどのような教室でも実施可能である点の他、従来の顕微鏡では困難であった観察の共有が容易になることから、災害時においても効果的に観察活動のアクティブ・ラーニングが実現できます。

※ つきましては、是非実際の授業の様態を会場にて取材・報道していただけますようお願いいたします。なお、本件に対する問い合わせ先は、以下にお願いします。

お茶の水女子大学企画戦略課課長(広報担当) 柴田 正造 TEL: 03-5978-5104